

自立活動指導案

日 時 平成22年7月16日（金） 8：35～9：15

活動場所 おおぞら学級

児 童 特別支援学級に在籍する児童 8名

指 導 者 鈴木 明子 合田 亜希子 久保 稔

中村 ひとみ 中尾 睦美 津幡 富治江

1 題材名 「英語で遊ぼう ～気持ちを表す表現～」

2 題材について

（1）題材設定の理由について

特別支援学級に在籍する子どもたちは、「課題対応」、「感情コントロール」、「対人コミュニケーション」等において未熟さや困り感を抱えている。「課題対応」では、自信のなさから新しい事柄や見通しのもてない課題に向き合うことができなかったり、課題を拒否したりするということがある。また、「感情コントロール」では、活動を行うときに順番やゲームの勝敗にこだわったり、自分の思い通りにならないことがあると、怒ったり活動を拒否したりするということがある。さらに、「対人コミュニケーション」では、自分の興味や関心のあることでしか友達と上手にかかわれないということがある。このようなことから、子どもたちは自分を伸び伸びと表現できなかったり、自信に満ちたおだやかな気持ちで学習に参加したりすることが難しいという現状がある。

本校には、恥ずかしくて声が出せない子、緊張で落ち着きがなくなり立ち歩いてしまう子、調子に乗りすぎて反対のことをやってしまう子、集中して話を聞くことが難しい子など、様々な困り感を抱えた子どもたちが在籍している。

以上のようなことから、異学年交流を図り活動形態を工夫しながら学び合うことで、一人一人がその子らしさを安心して発揮し活躍する場面や、達成感や満足感が得られるような活動を設定したいと考えた。

これまで、本の読み聞かせや特タイム（生活単元）の中で、英語を取り入れた活動を実践してきた。その時の実践から子どもの実態を把握し、指導計画を作成した。英語に親しむ活動を通し、コミュニケーションの能力を高め、子どもたちが生き生きと自分らしさを表現できるようになることを願っている。

上記のことから、今回は「気持ちを表す表現」を題材として扱い自分の気持ちを表現したりすることを経験させること、また、子どもたちの体を動かすことが好きな特性を生かし、体を動かす場面を取り入れることで、楽しんで授業に参加できる活動を仕組んだ。

これまでの研究や実践等から、特別支援の児童に英語活動を取り入れるメリットとしては、以下のことが挙げられる。

- リズム感覚が優れており、あらゆる言語の音を聞き分け、発音できる能力をもっていると言われている。
- 英語活動を通して、子どもの心を解放し、異質な文化や自分とは違う言動であってもそれを認め受け入れようとする力の育成に有効である。
- 英語活動では、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションもコミュニケーションの重要な手段である。非言語コミュニケーションを苦手としている子どもたちにとって意義のある活動になる。
- 広汎性発達障害や注意欠陥多動性障害等、発達障害の子どもたちは、目から入る情報を処理することが得意であることが多く、ピクチャカードやジェスチャーを見て、模倣したり反復練習したりすることを好む。

以上のような英語活動のメリットを生かし、英語を用いて楽しく活動することによって、情緒の解放を図るとともに、友達とのかかわり方や集団での適応能力を高めていきたい。

（2）題材の構成

本題材は、(Ⅰ)「ABCタイム」、(Ⅱ)「英語に親しもう」、(Ⅲ)「英語で遊ぼう」の3つの学習活動で構成している。題材全体を通して様々な活動に取り組み、苦手なことや未知のことへの挑戦意欲を喚起していきたい。

- (Ⅰ)「ABCタイム」は、英語を使って挨拶をしたり歌を歌ったり、前時の復習をしたりする活動を行う。授業の導入として、これから英語を勉強するという雰囲気づくりと児童の意欲付けを目的とした活動である。
- (Ⅱ)「英語に親しもう」は、リズムや動作を用いながら「気持ちを表す表現」を学習する。視覚や聴覚に加えて動作を取り入れることで、情緒の解放を図りながら楽しく英語を知ることが目的とした活動である。
- (Ⅲ)「英語で遊ぼう」は、(Ⅱ)の活動で学習した語や英語表現を使って実際に活動する。子どもの意欲を高め、積極的に活動できる雰囲気作りを大切に、友達やいろいろな人とののかかわり方やコミュニケーションのとり方を学ぶ契機としたい。

3 題材の目標

- (1) 友達と協力しながら一緒に活動に参加することができる。(興味・関心)
- (2) 楽しく活動に取り組むことができる。(情緒・適応)
- (3) 英語やジェスチャーなどの非言語を用いて、コミュニケーションをとろうとする。(ことば)

4 求める児童の変容の姿

- (1) 友達に自分からかかわろうとしたり、友達を意識した行動をしたりすることが増える。
- (2) いろいろな手段でコミュニケーションができることを知り、実践しようとするが増える。
- (3) これまでに体験したことのない活動にでも意欲的に取り組むが増える。

5 指導計画

時	主な活動	学 習 内 容	◎留 意 事 項
1	(Ⅰ) ABCタイム (Ⅱ) 英語に 親しもう (Ⅲ) 英語で 遊ぼう	(Ⅰ) 挨拶 ○歌『Seven Step』 (Ⅱ) 気持ちを表す表現 ○気持ちを表す言葉を知る。 ○気持ちを表す言葉を覚える。 (Ⅲ) 気持ちを表す言葉を使ってゲーム をする。 ・ Go to ・ Swatting Fly ・ Karuta ・ 神経衰弱	【(Ⅰ) ABCタイム】 ◎ リズムを利用して楽しく取り組ませ ることで、英語に慣れ親しませる。 ◎ 正しい発音にはこだわらない。 ◎ 意欲付けとして取り組む。 【(Ⅱ) 英語に親しもう】 ◎ ピクチャカードを用いたり、動作化 を行ったりことで、楽しく単語の練 習をする。 【(Ⅲ) 英語で遊ぼう】 ◎ ゲームのルールをわかりやすく説明 する。 ◎ 教師と子どもの対決と位置付けるこ とで、子どもの意欲を高め、積極的 に参加できるようにする。(Swatting Fly)

6 本時の学習

- (1) 目標

- (1) ゲームに参加しながら、いろいろな人とコミュニケーションをとることができる。 〈対人・適応〉
- (2) 英語やジェスチャーなどの非言語を用いて、コミュニケーションをとろうとする。 〈ことば〉
- (3) 楽しく活動に取り組むことができる。 〈情緒・適応〉

(2) 1 時間目の展開

	児童の学習活動	教師のかかわり（支援）						目標や評価〈◇〉との関連 ※授業全体を通して『能動的評価』に配慮する。
		T ₁ 久保	T ₂ 鈴木	T ₃ 合田	T ₄ 中村	T ₅ 中尾	T ₆ 津幡	
つかむ	1 ABCタイム ・今日の学習の確認 ・挨拶 ・歌『Seven Step』	T ₁ ・これから英語活動を行うという雰囲気をつくる。 ・学習への見通しを提示する。			T ₂ ～T ₆ ・子どものサポート ・意欲の喚起			※鈴木・津幡…はばたき 合田・中尾…おおぞら 中村 …かがやき ◇楽しく活動に参加しているか …(3)
とりくむ	2 英語に親しもう ・気持ちを表す言葉 ・単語の練習 ・動作化	T ₁ ○指導 ・リズム（チャンツ）を使いながら。楽しく練習する。			T ₂ ～T ₆ ○子どものサポート ○意欲の喚起 ・個別の配慮 ・意欲の喚起			◇英語やジェスチャーなどを用いて、コミュニケーションをとろうとしているか …(2)
	3 英語で遊ぼう ①Go to ②Swatting Fly ③Karuta ④神経衰弱	T ₁ ○ゲームの説明と進行 ・ゲームのルールをわかりやすく説明する。 ・ゲームを進行する。			T ₂ ～T ₆ ○子どものサポート ○意欲の喚起 ○気持ちを表現するジェスチャー			◇ゲームに参加しながら、いろいろな人とコミュニケーションをとろうとしているか …(1)
がんばる	4 活動の振り返り ・感想の発表 ・評価	T ₁ ○活動の振り返り 「楽しかったこと」 「次に頑張りたいこと」			T ₂ ～T ₆ ・姿勢や集中への個別的な喚起			